

## 八戸北高等学校 田村 綾理

「ボンジュール」「ハイハイ」この二つの挨拶だけで、私の世界は大きく広がりました。こんなに遠く離れた人とも、不十分な英語力でも笑顔をかわせるんだと感動したことを今でもよく覚えています。今回この研修に応募したのは、高校で学んだESD(持続可能な開発のための教育)の学習をもとにこれからのエネルギーの在り方、特に原子力発電について実際に自分の目で見て学び、自分の果たすべき役割について深く考えてみたいと思ったからです。幸運にも6人の中に選ばれたと知った時の喜びは、一生忘れないでしょう。

第1回、第2回の国内事前研修会ともにまだ6人の間には緊張感があり、不安と期待が入り混じった中で海外研修初日を迎えました。この研修会の私の目標は、フランス、スウェーデンの高校生が原子力について学校でどんな教育を受けてきたか、またこれからのエネルギーの電源構成はどうあるべきか意見を交換し、自分なりの意見を持つということでした。

まずフランスでは、アレバ社 ラ・アーク再処理施設とグリニャール高校を訪れました。ラ・アーク再処理施設は1966年から稼働が開始し、約5000人が働いています。工場見学では、使用済み核燃料を保管する、壁が約1メートルの厚さで守られている搬入室が見える部屋に行き、ちょうどロボットアームが使用済み燃料を持ち上げるところを見ることができました。また使用済み核燃料の中間貯蔵用プールは深さが約9メートルもある非常に広い所でしたが、そこで約5年間も貯蔵することに驚きました。この施設では特に安全性の確保に対する意識の高さが印象に残っています。去年も、工場内に問題がないか外部の安全委員会が視察をしており、そのうち14回は抜き打ちだったといいます。また、情報開示も積極的に行っており、施設から出る放射線量の数字を年3回国民に公開しているということです。これが周辺1キロメートルの所にも人が暮らす位信頼されている理由なのだと知りました。

スウェーデンでは、ロイヤルシーポート、フォルシュマルク中低レベル廃棄物貯蔵所、フォルシュマルク原子力発電所ビジターセンター、カテドラル高校を見学しました。ロイヤルシーポートは今回私が訪れた場所の中で最も思い出に残っています。ここは首都ストックホルムにあるのですが、国立公園に囲まれ、省エネに最大限の力を注いでいるという2030年完成予定の環境モデル都市なのです。驚いた省エネ政策は本

当にたくさんありますが、中でもロイヤルシーポート内に住宅を建てる場合、市が建設会社を選ぶのではなくあえて様々な会社を招いて競わせることで、多くの人々にエコ住宅の作り方を学ばせるというものでした。将来このようなエコ重視の街をたくさん作るにあたって重要な考え方だと思いました。その他にも「街の4割が緑」であることを目指しているため、木が何らかの病気にかかったり害虫に冒されたときに絶えてしまわないように、意図的に違う種類の木を植えていることを知りました。また家庭で不要になったものを持っていき、他の人が持ってきた物と交換できる交換所を歩いて行ける距離の所に設置するなど、まだまだ紹介したい工夫が沢山ありました。私は環境問題を突き詰めて考えたことがありませんでした。しかし、ここを訪れてガイドさんの説明を聞き、ガイドさんに「若い人たちにこのことを理解し、広めてほしい」と言われたときに「ここで学んだことをできるだけ多くの人に具体的に説明したい。もっと環境問題に対しての理解を深めたい」と真剣に考えるようになりました。昨年だけでも4600組、70か国からこの地を訪れて説明を聞いている人がいたそうです。私もその中の1人として日本でこの街の良さを伝えたいと思います。

この研修を通して一番楽しいと感じた瞬間はやはり、現地の高校生との交流でした。短い間でしたが、多くの友達を作ることができました。フランスでもスウェーデンでも英語を話すことはほぼ当たり前になっており、それにプラスしてみんな何らかの外国語を学んでいるということでした。英語すらおぼつかない自分とは違い、彼らの意識の高さを思い知りました。準備していた自己紹介やプレゼンでは相手の目を見て笑顔で話すことができ、これまで沢山練習を重ねてきて良かったと実感しました。ディスカッションは1回目のフランスではなかなか具体的な質問ができず、反省すべき部分が多くありましたが、2回目のスウェーデンでは事前に質問事項を考えておいたため積極的に発言できて、とても楽しかったです。スウェーデンの学校では環境について学ぶ授業を選択できるそうで、今回のディスカッションではその授業を受けた生徒たちがみんなしっかりした考えを持ち、的確な意見を出していたと思います。日本でも小さいうちから関心を持たせることが大切だと実感しました。

「エネルギー」と聞くと何だか難しい印象があり、私も高校でESDの学習をするまで自ら勉強しようと思ったことはありませんでした。多くの方は「自分一人が何かしらの意見を持っていたとしても、それで何かが変わるわけではない」と思うからなのか、発言することに消極的になってしまいます。しかし、今回の研修では一人ひとり

が自分の意見を持ち、間違ってもよいので声に出すことの大切さを学びました。これは大人になっても変わらず重要なことなので常に意識したいと思います。

今回の研修に同行していただいた通訳さんからの「もっともっと広い世界を見て、世界で活躍できる人になるんだよ！」という言葉に、小さい世界でとどまるのではなく、さらに勉強して広い世界に出て、何か人のためになることがしたいと改めて思いました。また、6人の進路について聞いた時、みんなそれぞれ夢に対して積極的に明るく語っていたのが少しうらやましいと感じました。いつも私は、どこかで失敗するんじゃないかとすぐに思ってしまうのですが、これからは無駄な心配をすることなくポジティブな姿勢で何事も挑戦したいと思えるようになりました。

最後になりますが、この研修会で私たちがスムーズに計画を実行し、時間の無駄なく沢山の経験ができたのは、多くの方々の苦勞と努力があったからだと思います。青森商工会議所の皆様、エネルギー懇談会の皆様、私たちを温かく迎えてくださったグリニャール高校、カテドラル高校の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。私は、また絶対に自分の力でフランス、スウェーデンに行くこと決めました。ここからがスタートだと思い、常に目標を持って前に進める人になります！